

Work Ability Index を用いた高年齢就労に関する調査研究

主任研究者 新潟産業保健推進センター相談員 中平 浩人
共同研究者 新潟産業保健推進センター所長 興梠 建郎
共同研究者 新潟産業保健推進センター相談員 百都 礼子

【はじめに】

我が国では、少子化の急速な進行や団塊世代の定年退職により、今後生産年齢人口の減少と高齢化がさらに速度を上げて進行すると見込まれている。事業場において定年引上げや再雇用など雇用延長の導入が進んでいる一方、事業場と労働意欲・能力のある高年齢者との間において就業・雇用のマッチングが必ずしもうまくいっているとは言えない状況でもある。さらには、根本的に、息の長い職業人生を可能とする高年齢労働者の労働能力の把握及び向上策の検討が未だ不十分である。

しかし、このように少子・高齢化に伴い労働人口の減少と高齢化が進む我が国では、国家活動とその屋台骨である産業活動のレベルを維持する対策として、将来は多くの労働者が年齢を意識せずに、その時点で持つ経験・能力を十分に発揮して、安全かつ健康的に生産活動に従事し、その結果として生産性が向上する社会の実現が急務である。最近では、年金支給年齢の上昇が検討されその現実性が高まる中、現行の定年以降の生活を維持するために、国民として個人的にも ageless な就労環境が必要である。

そのような社会の実現には、まず産業医学の観点から労働者の労働能力(WA)の把握とその経年変化の検討が必須である。これらの知見の集積を背景に地域保健と連携して初めて、意欲ある高年齢労働者がその労働能力を發揮して労働を継続できる社会システムづくりが可能となる。日本人の労働者の経年的な WA の把握はいまだ不十分である。一方、WA を指標化した WA Index(WAI)はフィンランドで考案された国際的に認知

されているツールであり^{1,2)}、世界的に労働力の高齢化が進む中すでに24か国語に訳され、今後一層活用されると考えられる。

申請者らはこれまで、労働者が安全で健康的に労働に従事できる要因について検討してきた。本調査は、意欲ある高年齢労働者がその労働能力を發揮して安全かつ健康的に労働を継続できる社会システムづくりの基礎情報として必要である WAI を用い、経年的に観察するコホートを設置して前向きコホート調査のベースライン調査を実施し、新潟県労働者の WAI の実態を明らかにすることを目的とした。

【方法】

- 1) 研究デザイン：前向きコホート研究の基礎作りとベースライン調査(横断研究)
- 2) 調査対象：新潟県内で新潟県産業看護部会会員(2012年5月現在)が所属する26事業場を対象とし、そこに所属する労働者を調査対象者とした。業種を、身体的能力が要求されるような仕事(補助、設備設置、ホームケアワークなど)、精神的能力が要求されるような仕事(オフィス、教育関係、管理的な業務など)及び仕事に双方の能力を必要とする場合(看護業務、運輸、医療、調理管理など)の3群に分けた。
- 3) 調査票：WAに関する以下の項目を調査した。i) 現在の労働能力と生涯のベスト時との比較、ii) 仕事に要求される労働能力、iii) 現在医師により診断されている疾患数、iv) 疾病による労働能力の評価、v) 過去一年間で病気のために勤務できなかった年数(年休を含む)、vi) 今から2年後の労働能力の自己予測、vii) 精神的な健康状態(余暇も含め生活全般について)

・回答者に関する項目は以下である。i) 定年制度の考え方、ii) 定年後の就労希望、iii) 仕事を辞める希望年齢、iv) 訓練の有無、v) 年齢・性別、vi) 学歴、vii) 婚姻歴

4) 事業場の調査研究参加意思確認：計画書及び依頼状兼説明書と調査票にて本調査研究を事業場内担当者及び産業看護職に説明した。個人情報保護についてもそれぞれに説明した。事業場の自由意思により同意が得られた場合、同意書に署名してもらった。さらに、産業看護職にも同意書に署名してもらった。

5) データ収集・回収：同意した事業場内産業看護職に、所属する労働者に調査票を配布してもらい、同意する労働者は同意書に署名し回答した。回答は無記名かつ自由とした。回収は事業場に適した方法で、産業看護職が実施した。

6) データ解析：回収したデータを集計後、WAI を算出し、年齢、性別、業種別などに統計学的に分析した。分析には、IBM SPSS Statistics 21 を用いた。

7) 倫理：産業保健調査研究倫理審査委員会の審査を受け承認された。なお、WAI 調査票の使用許可は、Finnish Institute of Occupational Health の WAI 管理担当事務局より得ている (2011 年 5 月)。

【結果及び考察】

参加に同意が得られた事業場は 14 社であった。総数 2,008 部配布し、1,682 部回収された (回収率 83.8%)。このうち WAI 計算が不可能な 183 部を除く 1,499 部 (有効回答率 89.1%) を分析した。分析結果は以下の通りである。

1) 平均 WAI は、男性 (n=879) が 39.7 ± 5.38 、女性 (n=595) が 39.8 ± 4.55 となり、いずれも 4 段階の 3 番目に当たる “良好” の範囲内であった。

2) 男性では 29 歳以下と 50 歳台および 65 歳以上の間にそれぞれ有意差が認められ、30 歳台も同様であった。女性では年齢階級間に差は認められなかった。

3) 男性の WAI は約 4 分の 3 が良好および優秀であった。

女性では 8 割以上が良好および優秀であった。「不十分」は男女共に 3% 以下であった。

4) 男性は「身体的能力が要求される仕事」の平均 WAI が最高であった。女性は業種間に差が認められなかった。男性では 30 歳台、女性では 20 歳台で「身体的能力が要求される仕事」の WAI が「身体的および精神的能力がともに要求される仕事」より有意に高かった。男女とも「身体的能力が要求される仕事」において、年齢階級間で有意差が認められた。

男性で「身体的能力が要求される仕事」の平均 WAI が最高であった理由は、横断調査のため明らかにできない。しかし、「身体的能力が要求される仕事」で他の業種に比べて早い年齢階級から WAI が下降し始めることがわかっており²⁾、本調査結果とも一致する。今後、業種別に WAI の維持対策を考慮する必要がある。

5) 本調査の対象者全体の 4 分の 3 以上が良好および優秀な WAI であった。本調査の結果を日本人対象の先行研究³⁾と比較すると、50 歳以上の対象者の WAI 評価は高かった。また、中国人調査結果⁴⁾との比較でも、50 歳以上で優秀の割合が高かった。

6) 仕事に関する教育訓練受講の有無別の WAI 分類を検討すると、男性で教育訓練の受講があると WAI 分類が有意に良好であることが判明した。WAI への身体的トレーニングの効果が報告されており⁵⁾、高年齢者就労の弊害の第一次予防として参考になると考えられた。

【文献】

1) Scand J Work Environ Health 2009;35(1):1-5.

2) 産業保健 21 2010;59:4-7.

3) 平成 18 年度産業保健調査研究報告. 労働者健康福祉機構 2006.

4) Occup Med 2006;56:89-93.

5) Scand J Work Environ Health 1997;23 suppl 1:58-65.